



うずら車

UZURAGURUMA

担当 横山舞

あの山に
似てるって？



● 寸 法: (左) 幅5.5cm × 高さ3.8cm
(右) 幅12.6cm × 高さ7.0cm

● 材 質: 木

● 使用地: 福島県二本松市

その名は「うずら車」

本資料は、福島県二本松市に伝わる郷土玩具「うずら車」です。その名の通り、うずらを模して作った木片に車輪がつき、背には白地に赤い点の羽模様の彩色がなされています。角材を切って作られていますが、その形は安達太良山の姿にも似せているといわれています。江戸時代末期までは盛んに作られ、子どもの健やかな成長を願って、武家や農家などの神棚に供えられていたようです。

九州にいるお友達

こうした鳥のモチーフに車輪をつけた玩具として有名なものでは、九州の雉子^{きじぐるま}車があります。土地によって雉子馬と呼ばれることもあります。形状は九州各地で様々ですが、大きく「清水系」、「人吉系」、「北山田系」の3系統に分類されます。このうち「人吉系」と「北山田系」は頑丈な作りで大型のものが多く、子どもがまたがるのに適しているのに対し、「清水系」は比較的小型で華奢なものが多く、曳き回して遊ぶのに適した作りとなっています。いずれも戸外での遊びに適した行動的な玩具であることから、しばしば、人の形で静的な東北地方の「こけし」と対比されることがあります。

引用・参考

- ・ 岩井宏實 2017 「きじぐるま【雉子車】」『絵引 民具の事典【普及版】』 河出書房新社
- ・ 相馬胤道 1986 「玩具」『二本松市史 第8巻 民俗 各論編1』、二本松市
- ・ 福岡市博物館アーカイブ「きじ馬と木うそー九州・木の郷土玩具ー」
(<http://museum.city.fukuoka.jp/archives/leaflet/316/index.html>) 2020年4月1日閲覧



安達太良山遠景(石澤夏巳撮影)